

登録有形文化財（建造物）

- ・指定名称 旧角館製糸工場（きゅうかくのだてせいしこうじょう）
- ・指定年月日 平成10年7月23日
- ・指定員数 1棟
- ・所在地・所有者 角館町田町下丁14-3 個人



旧角館製糸工場外景



当時の工場作業風景（明治30年頃宮本織機工場）
（無明舎出版思い出のアルバム大曲・角館・六郷より）



実際の工場内のトラス



工場北側扉



登録文化財プレート

明治44年(1910)から大正7年(1918)にかけて操業した角館製糸場の工場として建てられた建物の唯一の遺構で、大正5年(1916)と昭和40年代の移築を経て現在の地に残されました。

明治期の洋風工場建築になります。棟上にみえる越屋根には窓が並び、外壁の高窓とともに工場内の換気や採光が考えられたつくりとなっています。内部からは屋根を支える小屋組をみることができ、洋小屋組(対束式の木造トラス)をみせています。

<木造トラス> 小屋組などに使われる構造体の一つで、部材を三角形に組んだものをいう。

小屋組に用いると、束^{つかた}立て構造よりも強度が高くなるといわれる。形状の違いにより、いくつかの種類に分けられる。束^{つかた}立て構造の「和小屋」に対して、「洋小屋」と呼ばれ、ログハウスなどでは、丸太をホゾで組み合わせてつくるため、意匠的な要素も強い。キングポストトラス、クィーンポストトラス、フィンクトラスなどの形状があり、強度や使いやすさなど、それぞれに特徴がある。

※トラスは、角館駅前仙北市観光情報センター（下の写真）『角館駅前蔵』でご覧になれます。



角館駅前蔵トラス



角館駅前蔵外景